

道徳科学習指導案

令和4年10月5日（水）第2校時 児童数31名

第4学年2組 指導者 高山 卓哉

1 主題名 ぼくのじまんの町 内容項目 C—（16）伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度

2 教材名 石のまち 大谷

3 主題設定の理由

（1）ねらいとする道徳的価値について

本主題は、学習指導要領3学年及び4学年の内容項目C—（16）伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度「我が国や郷土の伝統と文化を大切にし，国や郷土を愛する心をもつこと」をねらいとしている。中学年では，社会科において地域の施設や特産品について学習したり，総合的な学習の時間において「ふるさと発見」として，学区の昔の様子を地域の方から話を聞いたりすることによって，郷土意識が深まりつつある。しかし，郷土の優れた文化や伝統について詳しく知ろうとしたり，自分たちの生活と結びつけたりすることは難しい。

指導にあたっては，自分たちの身近にある郷土の優れた文化や伝統について自ら知ろうとし，さらにそれらを大切に守っていききたいという気持ちを育てたい。

（2）児童の実態

本学級は，明るく活発な児童が多く，外で運動をしたり自分から進んで行動したりできる児童が多い。その反面，落ち着いて話を聞くことが苦手だったり，自己の考えに固執したりする児童も見られる。

本時に扱う大谷について，事前のアンケートによると，身近な地域であるにもかかわらず，大谷に行ったことがないという児童や，よく知らないという児童が約半数いた。また，2年生での生活科の学習を通して「明保地区」について，3，4年生での社会科や総合的な学習の時間を通して「宇都宮」を自分たちのふるさとと思っている児童が多い。身近な地域の施設や自然，宇都宮の特産物などの良さを理解している一方，それを守り受け継いでいくのが自分たち自身であり，自分からさらに郷土について理解を深めようという意識は低い。そこで，本時の学習を通して，文化や伝統について自分事として捉え，郷土を大切にしようという気持ちを育てたい。

（3）教材について

本教材は，主人公が地元大谷町で大谷石の工芸品を作っている父親から，大谷石についての話を聞いたり，資料館を見学したりすることを通して，大谷石の文化について考えていくという物語である。初めは自身が大谷町に住んでいながらも大谷石への関心が低かった主人公が，アメリカから来た母親の友人とともに，大谷について再度認識を深めていくことによって，その良さに気づき，自分の町を誇らしく思うようになる。大谷石の工芸品を作る父親の言葉や，主人公の気持ちの変容を捉えることで，郷土の良さに気づき，大切にしようとする気持ちを育てたい。

4 研究主題との関連

本校の研究主題「自己を見つめ、豊かな心でよりよく生きる児童の育成～多面的・多角的に考え、深める道徳科の授業を通して～」に迫るために、以下の手立てを考えた。

主体的に考えるための教材提示の工夫

- ・実物の石細工や工具を提示することにより、より教材文の内容を捉えやすくするとともに、自分たちの身近な事柄であることを理解し、主体的に考えることができるようにする。
- ・教材文の内容に合わせた資料を取り入れた本校独自のスライドを作成し、児童が自身のタブレットで確認できるようにする。

多様な感じ方や考え方に触れることのできる学習形態の工夫

- ・グループ学習を取り入れ、自分の考えを伝えたり聞いたりすることにより、主体的で多様な意見の交流を行うことができるようにする。

ICTの効果的な活用

- ・授業の前に自分たちのまちに対する気持ちを記入し、授業の中で再確認することにより、自身の気持ちの変容に気付くことができるようにする。

5 他領域との関連

国語 12月
『ふるさとの食』を
伝えよう

総合的な学習の時間
4月～10月
「地域を知ろう」

教材名「石のまち 大谷」
内容項目：C－（16）
伝統と文化の尊重、国や
郷土を愛する態度

教材名「ふろしき」
内容項目：伝統と文化の尊重、国や
郷土を愛する態度

社会科
4月 「栃木の様子」
10月
「山あげ祭りを受けつぐ人た
ち」
12月
「焼き物づくりがさかなな
町・益子町」

6 本時の指導

(1) ねらい 地域の良さを発見し、国や郷土を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 授業の観点

○主体的で多様な意見の交流を行うことができるようにするために、グループ学習を取り入れこ
とは有効であったか。

○自身の気持ちの変容を明確にしたり、全体で考えを共有したりするために、スクールタクトを
活用したことは有効であったか。

(3) 展開 ☆研究主題との関連 ※人権教育上の配慮 ◎児童指導上の留意点 ◇評価の視点

	学習活動	主な発問と予想される児童の 反応	教師の支援と評価	資料 準備
導入	1 アンケート の結果を知り、 自分たちの町 や大谷につい ての認識を確 認する。	・自分たちのまち（明保）は好 きですか。 ・それはどうしてですか。 わたしたちのまち（明保）に ついて考えよう。	・アンケートの結果を活用し て、自分たちの今の認識を確 認することによって、本時の 道徳的価値への方向付けを図 る。	アンケー ト 結 果 (スクー ルタクト) Google Earth

展開	2 教材「石のまち大谷」を読んで話し合う。 (1) エミリに大谷の町を案内することになったときのまさはるの気持ちを考える。 (2) 大谷資料館を見学しているときのまさはるの気持ちを考える。 (3) 「大谷のことをもっと、もっと知りたい。」と言ったときのまさはるの気持ちを考える。	エミリに大谷の町を案内することになったとき、まさはるはどんな気持ちになったでしょう。 ・どこにでもある石なのに…。 ・めずらしくない。 ・あまり興味がわかないなあ。 ・めんどくさいな。 ・別に行かなくてもよい。 大谷資料館を見学しているとき、まさはるはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・思っていたよりも楽しい。 ・わくわくする。 ・来てよかった。 ・昔の人はすごい。 「大谷のことをもっと、もっと知りたい。」と言ったとき、まさはるはどんな気持ちだったでしょう。 ・大谷資料館に行ってみると面白かった。 ・初めて大谷石はすごいと知った。 ・自分のまちのことを知りたいと思った。 ・自分のまちの自慢を知ることができてうれしかった。 ・いろいろなことに利用されていると知った。 ・地域の人々の苦労を知った。 ・大谷のみりよくを知らない人に伝えていきたいと思った。 ・昔の人々が努力して大谷石を守ってきた。	☆本校独自の教材スライドを提示することにより、大谷の様子を理解しやすくする。 ・事前に教材文を読ませておき、登場人物や出来事について、簡単に確認する。 ・大谷に対して関心が薄く、大谷細工に感動するエミリの言動を理解できないまさはるの気持ちを捉えることができるようにする。 ・大谷について知り、地域の伝統や文化に関心をもち始めたまさはるの様子の変化に気付くことができるようにする。 ・まさはるの気持ちの変化に焦点を絞り、大谷の良さに気付き、自分の町を誇らしく思う心情をつかめるようにする。 ・実物を提示し、教材文への関心を高めさせる。 ☆様々な考えに触れることができるようグループ活動を行い、意見の交換をする。 ◎自分の意見だけでなく、友達の意見を聞くことによって考えが深まっていくことを伝え、お互いの意見を尊重できるようにする。 ※友達の考えを共感的に聞くよう助言する。	タブレット 場面絵 教材文 (Google スライド) ワークシート 石細工 石材 工具
----	---	--	---	--

	(4)自分たちのまちのよさについて考える。 3 本時の学習を振り返る。	自分たちのまちのじまんは何でしょう ・登下校中に地域の人々が見守ってくれている。 ・身近な場所に自然がたくさんある。 ・梨や米など、おいしいものがある。 ・買い物に行くところや遊びに行くところがある。 ・地域の人や学校で協力しながらアジサイを育ててきた。 ・授業を通して気付いたことや考えたこと、友達の考えを聞いて思ったことなどについて振り返る。	・Google Earthを使用することで、教材文の内容から自分のまちについて考えられるようにする。 ☆故郷に対する思いを振り返り、スクールタクトに入力することで、自身の考えの変容に気付くことができるようにする。 ・スクールタクトで画面共有することで、他者の考えと自分の考えを比較できるようにする。 ・様々な観点から、自分自身が感じたことを素直に表現するよう助言する。 ・故郷への思いの根拠を考えさせ、故郷を大切にしたいという思いを深めさせる。 ◇地域の良さに気付き、故郷を大切にしたいと思う気持ちをもっている。(発言・スクールタクト)	Google Earth ワークシート（スクールタクト）
終末	4 教師の説話を聞く。		・故郷に関する教師の説話を聞くことで、より身近なものとして地域を大切にすることへの関心を高めることができるようにする。	